

# 公定価格における 職員配置の考え方について

内閣府 文部科学省 厚生労働省

平成26年8月5日

# 目次

○本資料の位置付け	．．．．．	P 2
○配置数の計算方法について	．．．	P 3
○幼稚園		
質改善後	．．．．．	P 4
質改善前	．．．．．	P 9
○保育所		
質改善後	．．．．．	P 14
○認定こども園		
質改善後	．．．．．	P 17
質改善前	．．．．．	P 22

## 本資料の位置付け

- 公定価格における配置すべき教育・保育従事者数（必要配置数）の具体的な算定方法や各加算要件については、平成26年6月4日子ども・子育て支援新制度説明会資料2-4「公定価格に関するFAQ」Ver. 1（平成26年6月4日時点版）でお示したところ（現在は、Ver. 2（平成26年7月8日時点版）が最新）。
- しかし、年齢別の子ども数や教育・保育従事者の実配置数は、各施設により様々であるため、上記資料から具体的な算式を導き出すのは困難であった。
- 本資料では、幼稚園、保育所、認定こども園（それぞれ質改善後・質改善前別）における具体的な年齢別の子ども数や教育・保育従事者の実配置数（モデルケース）を仮定し、そこから導き出される必要配置数と、それに応じて決定される加算の有無の判定方法について具体的にお示しする。
- ※ 本資料でお示しする加算の有無は、教育・保育従事者の実配置数が必要配置数を満たすかどうかという観点から判定しており、実際はこれに加えて、各加算要件を満たす取組を実施していることが求められる。
- ※ 学級編制調整加配・休けい保育士加配の有無やチーム保育加配の上限数は施設の利用定員により算定されるが、本資料では、各モデルケースで仮定した年齢別子ども数をそのまま施設の利用定員として設定した場合の算定方法をお示しする。

# 配置数の計算方法について

公定価格の加算等の適用に当たっては、幼稚園を含め、年齢別配置基準の考え方が導入される（保育所については、認可基準でもあり、認定こども園については、認可・認定基準でもある）。

## ①年齢別配置基準に基づく必要配置数

- 年齢別（年度の初日の前日における満年齢。1号認定子どもの満3歳児は3歳児扱い）に、子どもの数を配置基準で除し（小数点第2位以下切捨て）、各々を合計した後に小数点第1位を四捨五入。園長・所長は必要配置数に含めない。
- 3歳児の配置改善（20:1→15:1）がなされる場合は、算式中「1/20」を「1/15」に置き換えることとなる。
- なお、1号給付については36人～300人の施設に1名の学級編制調整加配、2号・3号給付については～90人の施設に1名の休けい保育士加配がされているため、必要配置数にそれぞれ1名を加えることが必要。  
※ 幼稚園の学級編制は年齢別配置基準と関係がなく、引き続き学級編制基準（原則35人上限）による。

<算式>

（幼稚園）

$$\text{必要配置数} = (4\text{歳児} + 5\text{歳児}) \times 1/30 + 3\text{歳児} \times 1/20$$

（保育所、認定こども園）

$$\text{必要配置数} = (4\text{歳児} + 5\text{歳児}) \times 1/30 + 3\text{歳児} \times 1/20 + (1\text{歳児} + 2\text{歳児}) \times 1/6 + \text{乳児} \times 1/3$$

※教育標準時間認定子どもに満3歳児対応教諭配置加算を適用する場合

$$3\text{歳児} \times 1/20 \rightarrow \text{満3歳入園児以外の3歳児} \times 1/20 + \text{満3歳入園児} \times 1/6$$

## ②非常勤・短時間勤務職員の常勤換算

- 年齢別配置基準に基づく必要配置数や公定価格上の加配数については、常勤者は実人数、非常勤・短時間勤務者は常勤換算値により算定する。ただし、学級担任は原則常勤専任であること、各組・グループに常勤の教育・保育従事者が1人以上（乳児は2人以上）配置されていること、短時間勤務の教育・保育従事者を充てる場合の勤務時間数が常勤の教育・保育従事者を充てる場合の勤務時間数を上回ることが条件。

<算式>

$$\text{常勤換算値} = \frac{\text{常勤職員以外の教育・保育に従事する者の1か月の勤務時間数の合計}}{\text{各施設の就業規則等で定めた常勤職員の1か月の勤務時間数}}$$

※小数点以下四捨五入

# [幼稚園・質改善後]教諭等配置の考え方

4歳以上児	a人
3歳児（満3歳児除く）	b人
満3歳児（年換算）	c人
計	d人

## 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (①>②>③>④)

①  $S + Q \leq R \rightarrow V = S + Q$

②  $T + Q \leq R \rightarrow V = T + Q$

③  $U + Q \leq R \rightarrow V = U + Q$

④ 上記以外  $\rightarrow V = P + Q$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

R※1：実配置数（常勤換算）

P※2：基本配置数  $\left( \frac{a}{30} + \frac{(b+c)}{20} \right)$

Q：学級編制調整教諭数  $(36 \leq d \leq 300) \Rightarrow 1$   
 その他  $\Rightarrow 0$

S※2：3歳児配置改善加算あり  $\left( \frac{a}{30} + \frac{b}{15} + \frac{c}{6} \right)$   
 満3歳児対応教諭配置加算あり

T※2：3歳児配置改善加算あり  $\left( \frac{a}{30} + \frac{(b+c)}{15} \right)$   
 満3歳児対応教諭配置加算なし

U※2：3歳児配置改善加算なし  $\left( \frac{a}{30} + \frac{b}{20} + \frac{c}{6} \right)$   
 満3歳児対応教諭配置加算あり

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V \rightarrow W = \min(R - V, \text{以下の上限})$   
 チーム保育加配加算額 × W人

Wの上限  $\left\{ \begin{array}{l} (d \leq 45) \Rightarrow 1 \\ (46 \leq d \leq 150) \Rightarrow 2 \\ (151 \leq d \leq 270) \Rightarrow 3 \\ (271 \leq d) \Rightarrow 4 \end{array} \right.$

## 調整部分

$P + Q > R \rightarrow$  年齢別配置基準を下回る場合の調整額 × (P + Q - R)人

※1 園長を除く

※2 式の値が2を下回る場合は、2を代入

# [幼稚園・質改善後]教諭等配置のモデルケース(前処理)

## ステップ1

全子ども数を186人、年齢別子ども数を以下のとおりと仮定。

4歳以上児	120人
3歳児(満3歳児除く)	60人
満3歳児(年換算)	6人
計	186人

## ステップ2

必要配置数を算定。

$$P : \text{基本配置数} \left( \frac{120}{30} + \frac{(60+6)}{20} \right) = 4 + 3.3 = 7.3 \cong 7$$

$$Q : \text{学級編制調整教諭数} (36 \leq 186 \leq 300) \Rightarrow 1$$

$$S : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算あり} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算あり} \end{array} \left( \frac{120}{30} + \frac{60}{15} + \frac{6}{6} \right) = 4 + 4 + 1 = 9$$

$$T : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算あり} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算なし} \end{array} \left( \frac{120}{30} + \frac{(60+6)}{15} \right) = 4 + 4.4 = 8.4 \cong 8$$

$$U : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算なし} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算あり} \end{array} \left( \frac{120}{30} + \frac{60}{20} + \frac{6}{6} \right) = 4 + 3 + 1 = 8$$

# [幼稚園・質改善後]教諭等配置のモデルケース(ケース1)

## ステップ3

加算の有無を判定。

ケース1) 実配置数(常勤換算)  $R = 14$  (人) の場合

### 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ② > ③ > ④)

①  $S + Q \leq R \Rightarrow 9 + 1 \leq 14$



$V = S + Q = 9 + 1 = 10$

②  $T + Q \leq R$



$V = T + Q$

③  $U + Q \leq R$



$V = U + Q$

④ 上記以外



$V = P + Q$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

### チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 14 - 10 = 4$



$W = 3$  (上限)

チーム保育加配加算額  $\times$  3人

### 調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 14$



年齢別配置基準を下回る場合の調整なし

# [幼稚園・質改善後]教諭等配置のモデルケース(ケース2)

ケース2) 実配置数(常勤換算)  $R = 9$  (人) の場合

3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。  
優先度 (① > ② > ③ > ④)

①  $S + Q \leq R \Rightarrow 9 + 1 \leq 9$



$V = S + Q$

②  $T + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 9$



$V = T + Q = 8 + 1 = 9$

③  $U + Q \leq R$



$V = U + Q$

④ 上記以外



$V = P + Q$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 9 - 9 = 0$



$W = 0$   
チーム保育加配加算なし

調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 9$



年齢別配置基準を下回る場合の調整なし



# [幼稚園・質改善後]教諭等配置のモデルケース(ケース3)

ケース3) 実配置数(常勤換算)  $R = 7$  (人) の場合

3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。  
優先度 (① > ② > ③ > ④)

①  $S + Q \leq R \Rightarrow 9 + 1 \leq 7$



$V = S + Q$

②  $T + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 7$



$V = T + Q$

③  $U + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 7$



$V = U + Q$

④ 上記以外



$V = P + Q = 7 + 1 = 8$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 7 - 8 = -1$



$W = 0$

チーム保育加配加算額 **なし**

調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 7$



年齢別配置基準を下回る場合の調整調整額  
 $\times (P + Q - R) = 7 + 1 - 7 =$  **1人**

# [幼稚園・質改善前]教諭等配置の考え方

4歳以上児	a人
3歳児（満3歳児除く）	b人
満3歳児（年換算）	c人
計	d人

$R^{*1}$  : 実配置数（常勤換算）

$P^{*2}$  : 基本配置数  $\left( \frac{a}{30} + \frac{(b+c)}{20} \right)$

$Q$  : 学級編制調整教諭数  $\begin{matrix} (36 \leq d \leq 300) \Rightarrow 1 \\ \text{その他} \Rightarrow 0 \end{matrix}$

$U^{*2}$  : 満3歳児対応教諭配置加算あり  $\left( \frac{a}{30} + \frac{b}{20} + \frac{c}{6} \right)$

※1 園長を除く

※2 式の値が2を下回る場合は、2を代入

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $U + Q \leq R \Rightarrow V = U + Q$

② 上記以外  $\Rightarrow V = P + Q$

満3歳児加算

あり

なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V \Rightarrow W = \min(R - V, \text{以下の上限})$   
 チーム保育加配加算額  $\times W$  人

$W$ の上限  $\left\{ \begin{array}{l} (d \leq 45) \Rightarrow 1 \\ (46 \leq d \leq 150) \Rightarrow 2 \\ (151 \leq d \leq 270) \Rightarrow 3 \\ (271 \leq d) \Rightarrow 4 \end{array} \right.$

## 調整部分

$P + Q > R \Rightarrow$  年齢別配置基準を下回る場合の  
 調整額  $\times (P + Q - R)$  人

## [幼稚園・質改善前]教諭等配置のモデルケース(前処理)

### ステップ1

全子ども数を186人、年齢別子ども数を以下のとおりと仮定。

4歳以上児	120人
3歳児（満3歳児除く）	60人
満3歳児（年換算）	6人
計	186人

### ステップ2

必要配置数を算定。

$$P : \text{基本配置数} \left( \frac{120}{30} + \frac{(60 + 6)}{20} \right) = 4 + 3.3 = 7.3 \doteq 7$$

$$Q : \text{学級編制調整教諭数} (36 \leq 186 \leq 300) \Rightarrow 1$$

$$U : \text{満3歳児対応教諭配置加算あり} \left( \frac{120}{30} + \frac{60}{20} + \frac{6}{6} \right) = 4 + 3 + 1 = 8$$

# [幼稚園・質改善前]教諭等配置のモデルケース(ケース1)

## ステップ3

加算の有無を判定。

ケース1) 実配置数(常勤換算)  $R = 14$  (人) の場合

### 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $U + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 14$



$V = U + Q = 8 + 1 = 9$

満3歳児加算

あり

~~② 上記以外~~



~~$V = P + Q$~~

~~なし~~

### チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 14 - 9 = 5$



$W = 3$  (上限)  
チーム保育加配加算額 × **3人**

### 調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 14$  ~~✗~~ 年齢別配置基準を下回る場合の調整 **なし**

# [幼稚園・質改善前]教諭等配置のモデルケース(ケース2)

ケース2) 実配置数(常勤換算)  $R = 9$  (人) の場合

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $U + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 9$



$V = U + Q = 8 + 1 = 9$

満3歳児加算

あり

~~② 上記以外~~



~~$V = P + Q$~~

~~なし~~

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 9 - 9 = 0$



$W = 0$

チーム保育加配加算 **なし**

## 調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 9$



年齢別配置基準を下回る場合の調整 **なし**

# [幼稚園・質改善前]教諭等配置のモデルケース(ケース3)

ケース3) 実配置数(常勤換算)  $R = 7$  (人) の場合

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。  
優先度 (① > ②)

①  $U + Q \leq R \Rightarrow 8 + 1 \leq 7$



~~$V = U + Q$~~

満3歳児加算

あり

② 上記以外



$V = P + Q = 7 + 1 = 8$

なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 7 - 8 = -1$



$W = 0$   
チーム保育加配加算 **なし**

## 調整部分

$P + Q > R \Rightarrow 7 + 1 > 7$



年齢別配置基準を下回る場合の調整調整額  
 $\times (P + Q - R) = 7 + 1 - 7 = \mathbf{1人}$

# [保育所・質改善後]保育士等配置の考え方

	2・3号
4歳以上児	a人
3歳児	b人
1, 2歳児	c人
乳児	d人
計	e人

## 3歳児配置改善加算

優先度の高いものを適用。  
優先度 (①>②)

①  $S + Q' \leq R$



② 上記以外



### 3歳児加算

あり

なし

$R^{*1}$  : 実配置数 (常勤換算)

$P^{*2}$  : 基本配置数  $\left( \frac{a}{30} + \frac{b}{20} + \frac{c}{6} + \frac{d}{3} \right)$

$Q'$  : (常勤) 休けい保育士数  $\begin{matrix} (e \leq 90) \Rightarrow 1 \\ \text{その他} \Rightarrow 0 \end{matrix}$

$S^{*2}$  : 3歳児配置改善加算あり  $\left( \frac{a}{30} + \frac{b}{15} + \frac{c}{6} + \frac{d}{3} \right)$

※1 所長を除く

※2 式の値が2を下回る場合は、2を代入

## [保育所・質改善後]保育士等配置のモデルケース(前処理)

### ステップ1

全子ども数を88人、年齢別子ども数を以下のとおりと仮定。

	2・3号
4歳以上児	30人
3歳児	25人
1, 2歳児	24人
乳児	9人
計	88人

### ステップ2

必要配置数を算定。

$$P : \text{基本配置数} \quad \left( \frac{30}{30} + \frac{25}{20} + \frac{24}{6} + \frac{9}{3} \right) = 1 + 1.2 + 4 + 3 = 9.2 \cong 9$$

$$Q' : (\text{常勤}) \text{休けい保育士数} \quad (88 \leq 90) \Rightarrow 1$$

$$S : \text{3歳児配置改善加算あり} \quad \left( \frac{30}{30} + \frac{25}{15} + \frac{24}{6} + \frac{9}{3} \right) = 1 + 1.6 + 4 + 3 = 9.6 \cong 10$$



# [保育所・質改善後]保育士等配置のモデルケース(ケース1、2)

## ステップ3

加算の有無を判定。

ケース1) 実配置数(常勤換算)  $R = 11$  (人) の場合

### 3歳児配置改善加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $S + Q' \leq R \Rightarrow 10 + 1 \leq 11$



### 3歳児加算

あり

~~② 上記以外~~



~~なし~~

ケース2) 実配置数(常勤換算)  $R = 10$  (人) の場合

### 3歳児配置改善加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $S + Q' \leq R \Rightarrow 10 + 1 \leq 10$



### 3歳児加算

~~あり~~

② 上記以外



なし

# [認定こども園・質改善後]保育教諭等配置の考え方

	1号	2・3号
4歳以上児	a人	e人
3歳児（満3歳児除く）	b人	f人
満3歳児（年換算）	c人	—
1, 2歳児	—	g人
乳児	—	h人
計	d人	i人

## 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。  
優先度 (①>②>③>④)

- ①  $S + Q + Q' \leq R \rightarrow V = S + Q + Q'$
- ②  $T + Q + Q' \leq R \rightarrow V = T + Q + Q'$
- ③  $U + Q + Q' \leq R \rightarrow V = U + Q + Q'$
- ④ 上記以外  $\rightarrow V = P + Q + Q'$

	3歳児加算	満3歳児加算
①	あり	あり
②	あり	なし
③	なし	あり
④	なし	なし

$R^{*1}$ : 実配置数（常勤換算）

$P^{*2}$ : 基本配置数  $\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+c+f)}{20} + \frac{g}{6} + \frac{h}{3} \right)$

$Q$ : 学級編制調整保育教諭数  $(36 \leq d+e+f \leq 300) \Rightarrow 1$   
その他  $\Rightarrow 0$

$Q'$ : (常勤) 休けい保育士数  $(i \leq 90) \Rightarrow 1$   
その他  $\Rightarrow 0$

$S^{*2}$ : 3歳児配置改善加算あり  $\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+f)}{15} + \frac{(c+g)}{6} + \frac{h}{3} \right)$   
満3歳児対応教諭配置加算あり

$T^{*2}$ : 3歳児配置改善加算あり  $\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+c+f)}{15} + \frac{g}{6} + \frac{h}{3} \right)$   
満3歳児対応教諭配置加算なし

$U^{*2}$ : 3歳児配置改善加算なし  $\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+f)}{20} + \frac{(c+g)}{6} + \frac{h}{3} \right)$   
満3歳児対応教諭配置加算あり

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V \rightarrow W = \min(R - V, \text{以下の上限})$   
チーム保育加配加算額  $\times W$ 人

Wの上限

- $(d+e+f \leq 45) \Rightarrow 1$
- $(46 \leq d+e+f \leq 150) \Rightarrow 2$
- $(151 \leq d+e+f \leq 270) \Rightarrow 3$
- $(271 \leq d+e+f) \Rightarrow 4$

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \rightarrow$  年齢別配置基準を下回る場合の調整額  $\times (P + Q + Q' - R)$ 人

※1 園全体の实配置数（園長を除く）

※2 式の値が2を下回る場合は、2を代入  
分園を設置している場合は、本園と分園それぞれで配置数を算定し合算する

# [認定こども園・質改善後]保育教諭等配置のモデルケース(前処理)

## ステップ1

全子ども数を177人、年齢別子ども数を以下のとおりと仮定。

	1号	2・3号
4歳以上児	60人	30人
3歳児（満3歳児除く）	40人	20人
満3歳児（年換算）	6人	—
1, 2歳児	—	18人
乳児	—	3人
計	106人	71人

## ステップ2

必要配置数を算定。

$$P : \text{基本配置数} \quad \left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 6 + 20)}{20} + \frac{18}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 3.3 + 3 + 1 = 10.3 \approx 10$$

$$Q : \text{学級編制調整教諭数} \quad (36 \leq 177 \leq 300) \Rightarrow 1$$

$$Q' : (\text{常勤}) \text{休けい保育士数} \quad (71 \leq 90) \Rightarrow 1$$

$$S : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算あり} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算あり} \end{array} \quad \left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 20)}{15} + \frac{(6 + 18)}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 4 + 4 + 1 = 12$$

$$T : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算あり} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算なし} \end{array} \quad \left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 6 + 20)}{15} + \frac{18}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 4.4 + 3 + 1 = 11.4 \approx 11$$

$$U : \begin{array}{l} \text{3歳児配置改善加算なし} \\ \text{満3歳児対応教諭配置加算あり} \end{array} \quad \left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 20)}{20} + \frac{(6 + 18)}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 3 + 4 + 1 = 11$$

# [認定こども園・質改善後]保育教諭等配置のモデルケース(ケース1)

## ステップ3

加算の有無を判定。


ケース1) 実配置数(常勤換算)  $R = 17$  (人) の場合


### 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算


優先度の高いものを適用。

優先度 (①>②>③>④)

①  $S + Q + Q' \leq R \Rightarrow 12 + 1 + 1 \leq 17$    $V = S + Q + Q' = 12 + 1 + 1 = 14$

②  $T + Q + Q' \leq R$    $V = T + Q + Q'$

③  $U + Q + Q' \leq R$    $V = U + Q + Q'$

④ 上記以外   $V = P + Q + Q'$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

### チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 17 - 14 = 3$    $W = 3$  (上限)  
 チーム保育加配加算額  $\times$  3人

### 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 17$   年齢別配置基準を下回る場合の調整なし

# [認定こども園・質改善後]保育教諭等配置のモデルケース(ケース2)

ケース2) 実配置数(常勤換算)  $R = 13$  (人) の場合

## 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (①>②>③>④)

①  $S + Q + Q' \leq R \Rightarrow 12 + 1 + 1 \leq 14$  ~~✖~~  $V = S + Q + Q'$

②  $T + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 \leq 13$   $\rightarrow$   $V = T + Q + Q' = 11 + 1 + 1 = 13$

③  $U + Q + Q' \leq R$   $\rightarrow$   $V = U + Q + Q'$

④ 上記以外  $\rightarrow$   $V = P + Q + Q'$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 13 - 13 = 0$  ~~✖~~  $W = 0$   
 チーム保育加配加算 なし

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 13$  ~~✖~~ 年齢別配置基準を下回る場合の調整 なし

# [認定こども園・質改善後]保育教諭等配置のモデルケース(ケース3)

ケース3) 実配置数(常勤換算)  $R = 11$  (人) の場合

## 3歳児配置改善加算・満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (①>②>③>④)

①  $S + Q + Q' \leq R \Rightarrow 12 + 1 + 1 \leq 11$  ~~✖~~  $V = S + Q + Q'$

②  $T + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 \leq 11$  ~~✖~~  $V = T + Q + Q'$

③  $U + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 \leq 11$  ~~✖~~  $V = U + Q + Q'$

④ 上記以外   $V = P + Q + Q' = 10 + 1 + 1 = 12$

3歳児加算	満3歳児加算
あり	あり
あり	なし
なし	あり
なし	なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 11 - 12 = -1$  ~~✖~~  $W = 0$   
 チーム保育加配加算 なし

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 11$   年齢別配置基準を下回る場合の調整額  
 $\times (P + Q + Q' - R) = 10 + 1 + 1 - 11 =$  1人※

※ 1号と2・3号で等分(それぞれ0.5人ずつ)して減算

# [認定こども園・質改善前]保育教諭等配置の考え方

	1号	2・3号
4歳以上児	a人	e人
3歳児（満3歳児除く）	b人	f人
満3歳児（年換算）	c人	—
1, 2歳児	—	g人
乳児	—	h人
計	d人	i人

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (①>②)

①  $U + Q + Q' \leq R \Rightarrow V = U + Q + Q'$

② 上記以外  $\Rightarrow V = P + Q + Q'$

### 満3歳児加算

あり

なし

R※1：実配置数（常勤換算）

P※2：基本配置数  $\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+c+f)}{20} + \frac{g}{6} + \frac{h}{3} \right)$

Q：学級編制調整保育教諭数  $(36 \leq d+e+f \leq 300) \Rightarrow 1$   
 その他  $\Rightarrow 0$

Q'：（常勤）休けい保育士数  $(i \leq 90) \Rightarrow 1$   
 その他  $\Rightarrow 0$

U※2：満3歳児対応教諭配置加算あり

$$\left( \frac{(a+e)}{30} + \frac{(b+f)}{20} + \frac{(c+g)}{6} + \frac{h}{3} \right)$$

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V \Rightarrow W = \min(R - V, \text{以下の上限})$   
 チーム保育加配加算額×W人

Wの上限  $\left\{ \begin{array}{l} (d+e+f \leq 45) \Rightarrow 1 \\ (46 \leq d+e+f \leq 150) \Rightarrow 2 \\ (151 \leq d+e+f \leq 270) \Rightarrow 3 \\ (271 \leq d+e+f) \Rightarrow 4 \end{array} \right.$

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow$  年齢別配置基準を下回る場合の調整額  
 ×(P + Q + Q' - R)人

※1 園全体の实配置数（園長を除く）

※2 式の値が2を下回る場合は、2を代入

分園を設置している場合は、本園と分園それぞれで配置数を算定し合算する

# [認定こども園・質改善前]保育教諭等配置のモデルケース(前処理)

## ステップ1

全子ども数を177人、年齢別子ども数を以下のとおりと仮定。

	1号	2・3号
4歳以上児	60人	30人
3歳児(満3歳児除く)	40人	20人
満3歳児(年換算)	6人	—
1, 2歳児	—	18人
乳児	—	3人
計	106人	71人

## ステップ2

必要配置数を算定。

$$P : \text{基本配置数} \left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 6 + 20)}{20} + \frac{18}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 3.3 + 3 + 1 = 10.3 \approx 10$$

$$Q : \text{学級編制調整教諭数} (36 \leq 177 \leq 300) \Rightarrow 1$$

$$Q' : (\text{常勤}) \text{休けい保育士数} (71 \leq 90) \Rightarrow 1$$

U : 満3歳児対応教諭配置加算あり

$$\left( \frac{(60 + 30)}{30} + \frac{(40 + 20)}{20} + \frac{(6 + 18)}{6} + \frac{3}{3} \right) = 3 + 3 + 4 + 1 = 11$$



# [認定こども園・質改善前]保育教諭等配置のモデルケース(ケース1)

## ステップ3

加算の有無を判定。


ケース1) 実配置数(常勤換算)  $R = 17$  (人) の場合

### 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $U + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 \leq 17$    $V = U + Q + Q' = 11 + 1 + 1 = 13$

② 上記以外   $V = P + Q + Q'$

満3歳児加算

あり

なし

### チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 17 - 13 = 4$    $W = 3$  (上限)  
チーム保育加配加算額 × 3人

### 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 17$   年齢別配置基準を下回る場合の調整なし

# [認定こども園・質改善前]保育教諭等配置のモデルケース(ケース2)


ケース2) 実配置数(常勤換算)  $R = 13$  (人) の場合

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度(① > ②)

①  $U + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 \leq 13$    $V = U + Q + Q' = 11 + 1 + 1 = 13$


② 上記以外   $V = P + Q + Q'$

満3歳児加算

あり

なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 13 - 13 = 0$  

$W = 0$

チーム保育加配加算なし 

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 13$   年齢別配置基準を下回る場合の調整なし 


# [認定こども園・質改善前]保育教諭等配置のモデルケース(ケース3)

ケース3) 実配置数(常勤換算)  $R = 11$  (人) の場合

## 満3歳児対応教諭配置加算

優先度の高いものを適用。

優先度 (① > ②)

①  $U + Q + Q' \leq R \Rightarrow 11 + 1 + 1 = 11$    $V = U + Q + Q'$


② 上記以外   $V = P + Q + Q' = 10 + 1 + 1 = 12$

満3歳児加算


あり

なし

## チーム保育加配加算

$1 \leq R - V = 11 - 12 = -1$    $W = 0$   
 チーム保育加配加算なし

## 調整部分

$P + Q + Q' > R \Rightarrow 10 + 1 + 1 > 11$   年齢別配置基準を下回る場合の調整額  
 $\times (P + Q + Q' - R) = 10 + 1 + 1 - 11 = 1$ 人\*

※ 1号と2・3号で等分(それぞれ0.5人ずつ)して減算